

平成26年度

適性検査Ⅰ

注 意

- 1 問題は [1] から [5] までで、18ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は45分間です。
- 3 声を出して読むはいけません。
- 4 解答はすべて解答用紙にはっきりと記入し、**解答用紙だけ提出**しなさい。
- 5 解答を直すときは、きれいに消してから、新しい解答を書きなさい。
- 6 **性別・受検番号**は解答用紙の決められた欄^{らん}2か所に必ず記入しなさい。

さいたま市立浦和中学校

1

太郎くんは、少年野球チームに所属しています。野球を題材にした小説を読みたいと思い、学校の図書室に行ったところ、横沢彰よこさわあきらの『スウィング!』という本を見つけました。太郎くんは、さっそく読んでみることにしました。

次の文章は、横沢彰著『スウィング!』（童心社）の一部です。これを読んで、問1～問6に答えなさい。

〈これまでのあらすじ〉

「おれ」こと「直」は、豪雪なほ地帯ごうせつに住む中学校3年生で、野球部に所属している。家は、兼業農家※1けんぎょうだが、父（「とうさん」）は一年前の冬、除雪作業中の事故で亡くなり、今は母（「かあさん」）と姉との3人で暮らしている。母は会社勤めのかたわら、集落の長老である「兼三けんぞうさん」の助けを借り、父の残した田んぼを耕作してきた。しかし、母が田んぼをやめようかと言い出したため、直は、中学校最後の大会を前に、野球との両立に努めながら、「田んぼをやる」ことを決意する。

横沢彰著「スウィング!」 童心社

89頁1行目から98頁13行目の文章による。

(一部ふりがなをつけるなどの^{へんこう}変更があります)

※1 兼業……本業のほかに他の業務を兼^かねること。

※2 畦……田と田の間に土を盛り上げて境としたもの。

問1 下線部①「また、山がはじまる…」とありますが、太郎くんは、このときの兼三さんの気持ちを、次のようにまとめました。空らん にあてはまるもっとも適切な漢字1字を答えなさい。

が近づき、今年の農作業が本格的に始まるのを前にした、緊張と期待。

問2 下線部②「なんで、つかんたいらと言うか、知っとるか。」とありますが、兼三さんはなぜ直に地名の由来を聞かせようとしたのですか。太郎くんは、次のようにまとめました。空らん にあてはまる内容を、30字以上40字以内で書きなさい。

兼三さんは、 から。

問3 下線部③「荒らした」とありますが、(1) どういう意味で言っているか、太郎くんは考えました。太郎くんの考えた内容を書きなさい。

また、(2) なぜ「荒らした」状態になってしまうのか、太郎くんは、次のようにまとめました。空らん にあてはまる内容を、20字以上25字以内で書きなさい。

「荒らした」状態になってしまうのは、 から。

問4 下線部④「とうさんが言っていた『田んぼを守る』という言葉が思い出された。」とありますが、太郎くんは、直がとうさんの言葉をどういう意味で受け止めたか考えました。適切ではないものを、次のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 直の家が代々継承してきた農業を、今後も続けていくという意味。
- イ 地域の自然環境を守り、景観を壊さない努力をしていくという意味。
- ウ 土地の人間として、農業を次の世代に守り伝えていくという意味。
- エ 土地の歴史や風土に合った方法で、耕作を続けていくという意味。

問5 空らん と のそれぞれに入るもっとも適切な言葉を、次のア～エの中から1つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア いそいそ
- イ のこのこ
- ウ むくむくと
- エ おずおずと

問6 下線部⑤「兼三さんは仕事の手順をおれに教えおわると、自分の田んぼに行くと言って、スコップを肩に担いで、雪の畦道を歩いていった。」とありますが、太郎くんは、兼三さんがどのような人物として描かれているか、次のようにまとめました。もっとも適切なものを、次のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 地域の現状を伝えたくて、直の決意がどれほどのものかを、課題を与えて人を試そうとする人物。
- イ 直のことを気にかけ、自分が父親に代わって手取り足取り面倒を見て、指導しようとしている人物。
- ウ 直の考えを誠実に受け止め、地域の現状をきちんと理解して、自立してほしいと期待している人物。
- エ 安易な気持ちで田んぼをやると言い出した直に対し、軽くあしらう態度で人を見下そうとする人物。

2

花子さんは、「将来の夢」という題で作文を書くことになりました。英語と歴史が好きな花子さんは、大人になったら、海外で日本の歴史を教えたいと思っています。でも、歴史って何を教えればいいのかの、歴史って何だろうという疑問がわいてきました。そんな時、お母さんから1冊の古い本を渡されました。それは、お母さんが子どもの時に読んだ『兄ひでお小林秀雄との対話』という本でした。

次の文章は、高見沢潤子たかみざわじゅんこ著『兄小林秀雄との対話』（講談社現代新書）の一部です。これを読んで、問1～問4に答えなさい。この文章は、筆者と兄である小林秀雄との会話形式で書かれています。

高見沢潤子著「兄小林秀雄との対話」講談社現代新書
98頁3行目から102頁1行目の文章による。

(一部省略やふりがなをつけるなどの^{へんこう}変更があります)

※1 インテリ……知識層。

※2 臭味……くさみ。

※3 機微……表面にあらわれない^{びみょう}微妙な心のはたらきやことがら。

問1 下線部①「歴史や地理は、暗記ものといわれて、おもしろくないものとされていたからね。」とありますが、花子さんは、小林秀雄が、歴史についてどのように考えているか、まとめました。そのまとめとして、適切ではないものを、次のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

ア 歴史家や歴史の先生の歴史に対する心構えや教えかたを改めるべきだ。

イ 歴史をだれにでもおもしろく、みんなに理解されるように教えるべきだ。

ウ 歴史を国民の常識をやしなうのに役にたてるべきだ。

エ 歴史を一種の社会学としてとらえて、まじめに語るべきだ。

問2 お母さんの本は古かったので、^{よご}汚れて読めないところがありました。空らん と に入るもっとも適切な言葉を、それぞれ次のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

ア 自然 イ 生活 ウ 秩序 エ 科学

ア きびしい イ こまかい ウ あたたかい エ するどい

問3 下線部②「そのできごとが、いまもなお、感じられるようにならなければいけないんだ。」とありますが、花子さんは、ここで小林秀雄が何を言いたいか、次のように考えました。その内容としてもっとも適切なものを、次のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 歴史上の事実を客観的に感じること。
- イ 歴史上の事実を専門的に考えること。
- ウ 歴史上の事実の原因をつきつめること。
- エ 歴史上の事実を自分のことのように感じること。

問4 花子さんは、次のように作文を書き上げました。

(1) 空らん と にあてはまる内容を、5ページから6ページの文章中から探し、空らん は、20字以上25字以内で、空らん は、15字以上20字以内で書きぬきなさい。

また、花子さんは、資料1も参考にして作文を書きました。(2) 空らん には、資料1から読み取ったことが書かれています。花子さんの書いた内容を想像して、書きなさい。

花子さんの作文

将来、日本の歴史を教える先生になりたい。それが、私の夢です。母は、高校で日本史を教えています。その母から、『兄小林秀雄との対話』という本を渡されました。「小林秀雄さんは、難しい文章を書く人だけれど、この本は妹さんと小林秀雄さんとの対話形式になっているの。『歴史とは何なのか』という小林秀雄さんの考えを参考に、花子も歴史についての考えを深めてみたら。」と、アドバイスをもらいました。

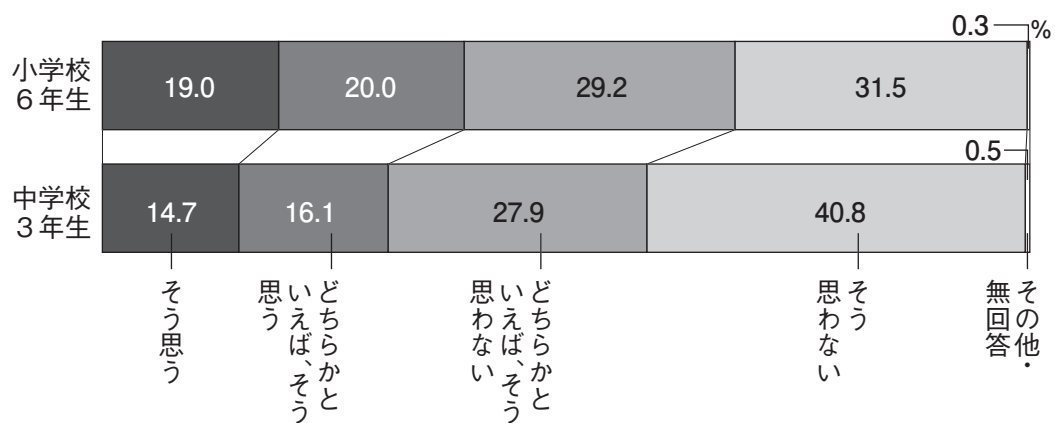
小林秀雄さんは、本の中で、歴史は、人間の体験がなければ存在しない、したがって、ほんとうの歴史は、 で満ちている、そういうものを学ぶべきだと言っています。また、ある時代の歴史に注目し、詳しくとりあつかい、 を教えることをすればいいとも言っていました。私は、この考えに共感しました。

私は、幕末から明治維新の歴史に興味があります。激動の時代から、文明開化に突き進む日本人の姿は、魅力的です。日本を変えよう、世界に学ぼうと必死でした。しかし、最近のアンケートを見ると、

私は、日本の歴史を海外で教えたいという夢を持っています。ハーバード大学で日本史を教え、活躍する日本人女性がいるという話を聞いたことがあるからです。私も、日本の伝統や生活、魅力的な人物について、世界に発信することを仕事にしたい。日本の魅力や存在感を、日本の歴史をとおして世界の人たちに語り、一緒に感動し合いたい。これが私の将来の夢です。

資料1 小学校6年生と中学校3年生へのアンケート結果

将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたいと思いますか。



文部科学省の「平成25年度全国学力・学習状況調査」より作成

3

花子さんは、授業で習った松尾芭蕉ばしやうに興味をもち、調べてみたところ、嵐山光三郎あらしやまこうざぶろうの『芭蕉紀行』という本を見つけました。芭蕉は、『奥おくの細道』という旅行記を残しています。

次の文章は嵐山光三郎著『芭蕉紀行』（新潮文庫）の一部です。これを読んで、問1～問4に答えなさい。

嵐山光三郎著「芭蕉紀行」新潮文庫

3頁1行目から4頁1行目の文章による。

289頁14行目から290頁9行目の文章による。

364頁1行目から9行目の文章による。

(一部省略やふりがなをつけるなどの変更へんこうがあります)

※1 不易流行……不易はいつまでも変化しないこと。流行は新しさを求めて時代とともに変化するもの。

※2 俳枕……俳句よに詠まれた名所きゆうせき・旧跡。

問1 下線部①「芭蕉を慕って旅をする人がこんなに多い」とありますが、花子さんは、なぜ筆者が芭蕉を慕って旅をする人が多いと考えているのか、まとめました。空らん にあてはまる内容を文章中から探し、10字以内で書きぬきなさい。

読者が、 に会いに行くから。

問2 文章中の空らん にあてはまる語句としてもっとも適切なものを、次のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 本で読むとき
- イ 旅をするとき
- ウ 自然に包まれるとき
- エ 句を作るとき

問3 花子さんは、芭蕉が『奥の細道』の旅路で通った都道府県についてカードにまとめました。資料1はその旅路の一部です。資料1の●の地点がある都道府県の説明を表す以下の【ア】～【ク】のカードを、芭蕉が通った順番どおりに並びかえ、記号で答えなさい。

カード

【ア】 け せんぬまこう 気仙沼港は多くの魚が水あげされています。東北地方の中心都市である せんたいし 仙台市があります。

【イ】 雪が多く降る地域です。全国的な米の産地である、えちご 越後平野があります。

【ウ】 さんしゅつがく ねぎやかぶの産出額が全国で上位です。 ぼんさい 盆栽村がある都市では、世界盆栽大会が開催される予定です。

【エ】 郷土料理のきりたんぽが有名です。伝統的な みんぞく 民俗行事に「なまはげ」があります。

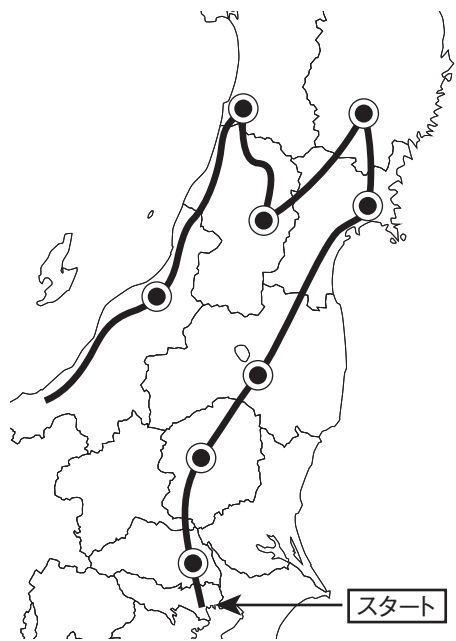
【オ】 とうしょうぐう いちごの生産がさかんです。日光東照宮には多くの観光客がやってきます。

【カ】 北上川が県のほぼ中央を北から南へ流れています。 みやざわけんじ 宮沢賢治の故郷です。

【キ】 さくらんぼの生産がさかんです。日本有数の米の産地である、 しょうない 庄内平野があります。

【ク】 あいづわかまつ 会津若松市は、古い城下町です。 おぜ 尾瀬国立公園には多くの自然が残されています。

資料1



問4 花子さんは、芭蕉について新聞にまとめました。その中で芭蕉が活躍した江戸時代と、中尊寺金色堂ができた平安時代を比べました。「芭蕉新聞」をもとにして、(1)と(2)に答えなさい。

芭蕉新聞

発行者
浦和花子

夏草や兵どもが夢の跡

—はかなく消えるこの世の栄華—

江戸時代

B

【政治】

大名は参勤交代によって自分の妻子を人質として江戸に残し、多くの場合、大名自身は一年おきに江戸と領地とを往復することが義務付けられた。

【文化】

町民が中心となって、新しい文化が栄えた。浮世絵や芝居が、人々の人気を集めた。

↑時代を比べました↓

平安時代

桓武天皇が都を平安京に移し、約四百年間続いた時代

【政治】

朝廷の政治は一部の有力な貴族が行うようになった。なかでも藤原氏は大きな権力をふるった。

【文化】

日本の風土に合った日本の文化が生まれた。

C



《芭蕉のプロフィール》

伊賀国（現在の三重県伊賀市）で生まれた。武士であったが、俳諧を学び、江戸に出て本格的に俳諧を学んだ。

元禄2年（1689年）3月に江戸を出発し、弟子の曾良と一緒に東北地方などを旅して『奥の細道』を書き残した。

《主な作品》

『野ざらし紀行』『嵯峨日記』『更科紀行』

(1) 空らん B にあてはまる言葉を、「芭蕉新聞」の平安時代にならって、20字以上30字以内で書きなさい。

(2) 空らん C にあてはまる文を、「女性」「朝廷」という語句を必ず用いて、20字以上30字以内で書きなさい。